

薬局をサポートするマガジン

Fresh Leaf

特別号
2011

特
集

実務実習について考える

薬剤師会から …3

森昌平 (日本薬剤師会)

大学から …5

小林大介 (城西大学薬学部) 徳山尚吾 (神戸学院大学薬学部)



実務実習・現場レポート …7

小諸北佐久薬剤師会 石塚薬局
Kitano Group 株式会社北野薬局 北野調剤薬局高尾店
日本大学医学部附属板橋病院薬剤部
横浜新緑総合病院薬剤部

薬局薬剤師へのメッセージ …12

医師から

出水 明 (医療法人出水クリニック)
長尾和宏 (医療法人裕和会長尾クリニック)

看護師から

田中美江子 (財団法人ライフプランニングセンター訪問看護ステーション中井)
長内さゆり (医療法人同心会訪問看護ステーションあおぞら)

ケアマネジャーから

岡島潤子 (東京都介護支援専門員研究協議会・株式会社やさしい手)
山下和枝 (あいあいケアプランセンター)

患者から

緒方真子 (神奈川県立がんセンター患者会「コスモス」)
金井弘子 (リンパの会)

アルフレッサからのお知らせ …17

表紙の解説 …19

alfresa

在宅ケアの一翼を担う薬剤師に期待すること



医療法人出水クリニック
(大阪府岸和田市)

出水 明

ミックス型診療所を開業して14年あまりになりますが、当初から在宅薬剤も院外処方でも訪問薬剤管理指導を依頼してきました。多様なオピオイド処方への迅速な対応、中心静脈栄養時の無菌調剤や回路の提供、薬剤混注時の配合禁忌などの問題点のチェック、処方内容の問題点の指摘、夜間や休日の対応、一包化や薬剤カレンダーでの服薬支援、他院から処方されている薬剤を含めての管理などです。現在、当院では在宅患者の約90%が訪問薬剤管理指導を受けており、在宅ケアの医療部分は医師、訪問看護師、薬剤師の連携がその中核だと考えています。薬剤師へ期待する役割として以下のような点があります。

(1) 他職種との連携：医師、訪問看護師、リハビリスタッフなどの医療職との情報共有はまだ十分とは言えません。私たち医師からの情報提供も不十分なのですが、薬剤

師の方からも積極的に情報を求めてほしいと思います。またホームヘルパーやケアマネジャーに対しては、服薬管理や観察注意点などをわかりやすく提供してもらいたいです。

(2) 患者、家族への説明、指導、質の評価：薬剤情報以外にも文書を渡し、説明・指導ができればわかりやすいと思います。また利用者にアンケートをとって、費用や情報のわかりやすさなど、指導の質を評価することが大切です。

(3) ケアマインドの理解とケアのケア化：在宅ケアはその名のようにケアを目指す病院医療と基本姿勢で異なる部分があります。薬剤師がケアのマインドを理解し、そのうえで薬剤投与については日常生活を阻害しない方策（ケアのケア化）を工夫し、医師や看護師に助言してくれることを期待します。

薬局薬剤師へのメッセージ

医師から

薬剤師さん、書を置いて町に出よう！

私は外来診療と在宅医療に従事する町医者です。普段、患者さんが持ってくる他院の薬剤情報の下で名前を見る以外、薬剤師さんと直接お話する機会は意外と少ないものです。

認知症で不安や猜疑心が強くなっている患者さんへの薬剤情報の副作用欄に「めまい、ふるえ」と書いてあると必ずトラブルになります。そこで初めて薬剤師さんと話をすることになります。人を見て薬剤情報を提供してほしいと心から願います。画一的な情報提供は困ります。

在宅医療の現場には、医療の真実の姿が横たわっています。何年分もの手つかずの薬やインスリン製剤。すぐに薬局が開けるような(?) おうちもありました。処方せんを書く医師も医師なら、出す薬剤師も薬剤師。現実を直視することから医療改革が

始まります。

薬剤師さんをお願いしたいことは、町に出て患者さんの生活を見てほしいということ。電子カルテ画面ばかり見て患者さんの顔を見ない医師がよく非難されますが、同様に、薬棚ばかり見て患者さんの生活や特性を見ない薬剤師さんも増えてきているのではないのでしょうか。ぜひ、薬剤師さんが患者さんの生活情報を医師にフィードバックしてください。それをありがたく思わない医師は、その程度の医師。逆に、その情報に感謝する医師とは密接に交流してください。新薬が続々と登場し、覚えきれないことばかりです。在宅現場でも胃瘻からの薬剤注入などには薬剤師さんの知識を借りないと前に進みません。制度はあとからついてくるもの。薬剤師さん、ぜひとも書を置いて一緒に町へ出て来てください！



医療法人裕和会長尾クリニック
(兵庫県尼崎市)

長尾和宏